

情報公開文書

肺がんの側性による生命予後への影響：疫学的および臨床的検討

1. 研究の対象となる方

2013 年 1 月～2015 年 12 月に肺がんと診断され、地域がん登録(千葉県)に登録された方
2016 年 1 月以降に肺がんと診断され、全国がん登録(千葉県)に登録された方

2. 研究目的・研究の方法

がんは全身のさまざまな臓器や組織に発症する可能性があり、その疫学的特性や治療法は多岐にわたります。がんの発症に影響を与える要因としては、遺伝的要因、年齢、性別、飲酒・喫煙などの生活習慣、感染症、そして環境因子などが複雑に絡み合っていると考えられています。近年の研究で、がんの発症頻度には左右非対称性が存在する可能性が指摘されています。特に大腸がんや乳がんでは、側性の違いにより発症率に差が認められることが報告されています。

本研究では千葉県の全国がん登録の情報をを用いて、肺がんの側性での発症頻度に差があるかどうか、発症部位の側性の差によって生命予後が異なるかどうかを統計的に分析し評価することを目的としています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2013 年診断以降の全国がん登録システムに登録された千葉県の匿名化がん情報（全肺がん症例、側性が左側か右側か判別できない症例は除く、匿名化がん患者基本情報含む）。個人を直接特定できるような情報は利用しません。

4. 全国がん登録の情報の利用

本研究では、がん登録情報の入手のために「がん登録等の推進に関する法律」に基づいて登録されている「全国がん登録」情報を利用したいと考えております。

「全国がん登録」とは、日本でがんと診断されたすべての方のデータを、国で 1 つにまとめて集計・分析・管理する新しい仕組みです。この制度は平成 28 年(2016)年 1 月に始まりました。

「全国がん登録」では、お住まいにかかわらず全国どこの医療機関で診断を受けても、がんと診断された方のデータが都道府県に設置された「がん登録室」を通じて集められ、国のデータベースで一元管理されています。

詳しくは、がん情報サービス『全国がん登録とは』をご覧ください。

(<https://ganjoho.jp/public/institution/registry/national.html>)

(1) 全国がん登録情報等の利用目的

本研究では全国がん登録情報を利用して、匿名化された対象のがん情報を取得し、発症部位の側性の差によって生命予後が異なるかどうかを統計的に分析し評価することを目的としています。

5. 研究が行われる機関および研究者名

千葉県がんセンター研究所 道端伸明

6. 研究責任者

千葉県がんセンター研究所 道端伸明

7. 個人情報の保護について

本研究では全国がん登録情報を利用して、対象のがん情報を取得しますが、個人を直接特定できるような個人情報は取得いたしません。

8. 研究の資金源および利益相反について

本研究は、公益財団法人がん研究振興財団の研究費を用いて実施する予定です。当センター研究者の利益相反は、当センター利益相反委員会が適切に管理しています。

9. この研究は倫理審査委員会の承認が得られています。

本研究は当センター倫理審査委員会が承認し、病院長が研究実施を許可しています。

10. 遺伝子情報の開示について

本研究は遺伝子解析を行いません。従って、遺伝子情報の開示はありません。

11. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究責任者 千葉県がんセンター研究所 道端伸明

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町 666-2

TEL 043-264-5431(代表番号)

Ver.20240125-1(2024 年 1 月 25 日作成)